

平成29年11月7日
京阪ホールディングス株式会社
京阪電気鉄道株式会社
株式会社京阪百貨店
株式会社京阪ザ・ストア

**えきから始まるまちづくり宣言「新しいまちづくり 駅からはじめます」
～枚方市駅を「いつも使いたい、一度は行ってみたい駅」に～**

- 株良品計画とともに「シンプルで心地よい空間」の駅を具現化
- 中央口改札正面京阪百貨店2階に「無印良品」が来店し、駅コンコースと店舗をトータルデザイン
- 駅ナカでは、これからのライフスタイルに合わせた新業態店舗を展開

京阪ホールディングス株(本社：大阪市中央区、社長：加藤好文)、京阪電気鉄道株(本社：大阪市中央区、社長：中野道夫)、株京阪百貨店(本社：守口市、社長：辻良介)、株京阪ザ・ストア(本社：大阪市中央区、社長：小西敦夫)は、京阪線の中核駅である枚方市駅をリニューアルします。

京阪グループでは、中期経営計画「創生果敢」における主軸戦略の一つとして「沿線再耕」を掲げており、駅を中心に沿線の「くらしの価値」を高めることに主眼を置き、沿線を新たにデザインすることに取り組んでいます。その中でも「枚方市駅および周辺エリア再開発」は最重点プロジェクトに位置付けており、京橋駅・淀屋橋駅に次ぐ乗降客数(1日約9万人)の枚方市駅を「東海道56番目の『枚方宿』」「京阪間を往来する三十石船に食事を提供した『くらわんか舟』」といった、枚方の歴史や地域性も踏まえながら、駅全体の魅力と価値を向上させ、中核市の顔としてふさわしい駅へと再生するものです。

枚方市駅のリニューアル計画にあたっては、単なる美装化ではなく、「新しいまちづくり 駅からはじめます」という沿線再耕の基本的な考え方のもと、商品や活動を通じて「感じ良いくらし」を提案する株良品計画をパートナーとして、これからの時代の駅に求められる機能やサービスについて、ハードとソフトの両面から検討を進め、取り組んできました。

今回、「いつも使いたい、一度は行ってみたい駅」をコンセプトに、「シンプルで心地よいデザイン」「郊外駅ナカ商業」「駅の観光資源化」の3つの観点で枚方市駅を進化させます。同駅2階中央口の駅コンコースと商業施設を一体のゾーンとして、トータルにデザインされた空間を実現し、京阪百貨店2階での「無印良品」出店や新業態の駅ナカ店舗の展開により、これからのライフスタイルに応じた商品やサービスをご提供します。空港リムジンバスも発着する、二大観光都市「京都」「大阪」の中間駅という立地も活かし、海外への情報発信等により、「駅」としてのインバウンドの誘客にもチャレンジします。詳細は別紙のとおりです。



枚方市駅 中央口コンコース (イメージ)

(別紙)

1. 枚方市駅リニューアル概要について

(1) 対象ゾーン

2階中央口コンコース（改札内外）および京阪百貨店2階

(2) 全体コンセプト

“いつも使いたい、一度は行ってみたい駅”

(3) 内 容

① シンプルで心地よいデザイン

駅構内と商業施設を一体のゾーンとしてとらえ、「シンプルで心地よい」空間へとトータルにデザインを一新します。木目調を基本に、天井のスケルトン化や一部壁面のガラス化など、開放感のある環境とすることで、自然環境に恵まれた枚方でのくらしを表現し、駅を訪れるだけで、まるで自分の家にいるかのような感覚を自然に体感できる駅空間とします。無印良品による初の駅空間デザインです。

また、駅案内サインや広告看板についても、掲出方法やレイアウトの見直し、デジタルサイネージの採用などにより、「心地よい空間」にふさわしいものへとデザインします。

② 郊外駅ナカ商業

<新業態店舗>（売場面積：370 m²）

中央口改札内にあるコンビニエンスストア「アンスリー」と一部構内店舗の区画を一体化して、㈱京阪ザ・ストア直営の新業態店舗を展開します。従来のコンビニ機能に加え、毎日のお買い物に必要な生鮮食品や出来立てのお惣菜などを揃えることで、時間帯で異なるお客さまのニーズや利用シーンに合わせた売場展開を行います。また、店舗内に飲食カウンターを併設し、「くらわんか舟」といった枚方の歴史的背景とローカライズの視点から、日本食文化の根源である「出汁」をテーマに、地元食材を使った自然の「うま味 UMAMI」を気軽に味わうことができるなど、駅ナカならではのコンパクトで機能的な食の専門店を目指します。その他の既存区画についても一部テナントを更新します。

<無印良品>（売場面積：1,338 m²）

京阪百貨店2階フロアでフルラインの商品を取り揃えた「無印良品」を展開します。店舗内装と正面ファサードは、駅コンコースと一体的にトータルデザインされた、新しい買い物空間を演出します。ライセンスドストアとして、㈱京阪百貨店が運営します。

③ 駅の観光資源化

空港リムジンバスの発着駅で、二大観光都市「京都」「大阪」を行き来する外国人観光客が気軽に立ち寄れる中間駅という立地を生かし、海外でも人気の「無印良品」が改札正面にあり、無印良品が手がけた初の駅空間という特性を強調することで、インバウンドの誘客にもチャレンジします。

京阪グループのPRツールのみならず、インスタグラム等の無印良品のSNSとも連携して海外にも情報を発信し、枚方市駅の観光資源化を目指します。

(4) リニューアル時期

① 京阪百貨店2階「無印良品」 平成30年5月頃

※無印良品オープンに合わせて、改札外コンコースも同時期に一部リニューアルします。

② 改札内コンコース・駅ナカ店舗 平成30年末頃

(5) その他

枚方市駅1階では「サービスコア」をリニューアルし、既存の JTB 京阪トラベルのほか、雑貨やカフェを配置し、バスをご利用のお客さまの待ち時間にもご利用いただける快適で便利な空間とします。完成は平成30年秋頃の予定です。

(ご参考：枚方市駅について)

・沿革

明治43年4月 開業（当初の駅名は「枚方東口」）

昭和20年5月 交野線の起点駅に

昭和24年20月 駅名を「枚方市」に改称

平成5年3月 京阪本線・交野線（枚方市）連続立体交差事業の高架工事竣工

・乗降人員 91,782人/日（平成28年旅客流動調査）

・形状 3面6線島式ホーム（京阪本線2面4線、交野線1面2線）

以 上

えきから始まるまちづくり宣言



えきから始まるまちづくり宣言

「新しいまちづくり 駅からはじめます」

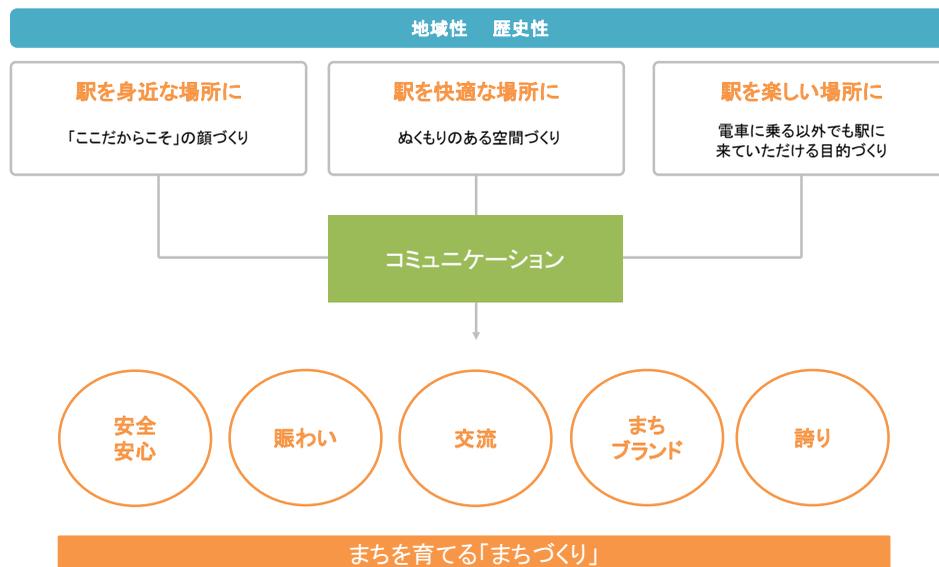
これからのまちづくりは、まちを育てること。

さまざまな社会問題の解決へ向けて、
できることから取り組むことで、地域の活性化や
住みやすい環境づくりへとつなげていきます。

駅にしかできないこと、駅だからできること。
公共交通の結節点であり、あらゆる人が利用できる
場所であることを活かしたサービスを提供し、
新しいまちづくりへとつなげていきます。

2

これからの駅



3

えきから始まるまちづくり宣言



枚方市駅

江戸時代、枚方は京都・大阪間の水陸交通の要衝として、多くの旅人が集まり、賑わう場所でした。京街道には、旅籠、茶屋、料理屋が建ち並んでいました。淀川では、枚方を通過する三十石船に漕ぎ寄せて、食べ物や酒を売る茶船「くわんか舟」が名物となっていました。

そして今、枚方市の人口は40万人を超えています。枚方市駅は京都・大阪間を走る京阪電車最大の中間駅です。

周辺には、大学、病院、市役所など多くの人が集まる場所があり、多様な世代の人々が利用する駅となっています。

昔も今も、多くの人が集まり交流するDNAを持つ枚方市駅から、新しいまちづくりをはじめます。



地域
歴史

枚方の地域性・歴史性



江戸時代「三十三船」の舟

くらわんか舟

江戸時代に淀川を往来していた「三十三船」は途中下船無効であったため、船上で飲食可能な「くらわんか舟」には人気がありました。電車を途中下車しなくてもいい駅ナカで飲食店を展開します。



くらわんか碗

くらわんか舟で使われていた器は、伊万里焼や波佐見焼の日常磁器で「くらわんか碗」と呼ばれていました。「くらわんか碗」を無印良品で販売します。



学園都市ひらかた

枚方市内には5つの大学(関西医科大学・大阪歯科大学・関西外国語大学・摂南大学・大阪工業大学)があり、医学や歯学、薬学、看護学、外国語、工学などあらゆる分野において約18,000人の学生が学んでいます。学生が便利に利用できる店舗を展開します。



五六市

京街道沿いで賑わう手作り市。体にやさしい手作りのフードや作り手の顔や思いが見える雑貨などがあり、多くの人で賑わっています。改札前広場空間でも開催します。

6

枚方が住み続けたいまちになるように、駅から変わります。
「いつも使いたい、一度は行ってみたい駅」にしていきます。

1

シンプルで心地よいデザイン

快適にご利用いただけるように「シンプルで心地よいデザイン」にします。

2

郊外駅ナカ商業

駅ナカにある商業のあり方を考え、これからの暮らしに役に立つ「郊外駅ナカ商業」を展開します。

3

駅の観光資源化

郊外にありながらインバウンドの誘客にチャレンジします。



7

枚方市駅 えきから始まるまちづくりパートナー

無印良品

無印良品はシンプルで美しい商品が特徴で、世界へ向けて「感じ良い暮らし」を提案されています。

枚方市駅で京阪沿線の「感じ良い暮らし」を表現することで「いつも使いたい、一度は行ってみたい駅」に変えていきたいと考え、無印良品をパートナーに、枚方市駅の新しいまちづくりの検討を進めています。



8

1 シンプルで心地よいデザイン

無印良品デザインを駅に

駅の機能と無印良品デザインの融合により、シンプルで心地よい空間をつくります。

自然環境に恵まれた枚方での暮らしを表現するために、木目調を基本に開放感ある空間デザインにします。

駅の顔でもある中央改札前を広場空間にデザインして人々のコミュニケーションが生まれる象徴的な場所にします。

看板やサインは利便性を大切にしながらレイアウトや掲出方法を見直し、統一感ある空間をつくります。



9

2 郊外駅ナカ商業

郊外駅ナカ商業をモデル展開

交通結節点であり多様なお客さまが、ご利用される駅で求められる商業を展開します。

時間帯によって変化するニーズに対応可能な新業態の店舗が登場。売店・コンビニ・スーパーの各機能を備えます。

「おいしい出汁」をテーマにした軽飲食店を展開します。テイクアウトも可能にして、お客さまのニーズにお応えしていきます。

京阪百貨店2階が「無印良品」に。商品を通して京阪沿線でのライフスタイルを提案していきます。



10

3 駅の観光資源化

駅が観光の目的になるように

枚方市駅が京都・大阪観光ルートの一つとなるよう、目的づくりに取り組みます。

枚方の手作り市(五六市)や季節を感じるマルシェの開催、地域の名産品の販売など賑わいあふれる楽しい場所にしていきます。

海外でも人気の高い無印良品の店舗を改札前で大規模に展開し、海外のお客さまのニーズにお応えします。

無印良品のSNSを通して枚方市駅の情報をグローバルに発信します。



くらわんか碗



11